

1 教科・単元名

算数科 円と多角形（プログラミング）

2 本時の目標

- 「辺の長さが全て等しく、角の大きさも全て等しい」という正多角形の性質をもとに、コンピュータを用いて正多角形のプログラムを考えることができる。（思考・判断・表現）

3 本時のねらいは達成されたか

- ・ 3名中3名の児童が適用題2問とも、正多角形の性質を基に、プログラムに入れる数値を、辺の数は6本、回す角の大きさは 60° と考え、正六角形をかくことができた。このことから、教科のねらいはほぼ達成できた。

4 目標達成のための手立てと成果

（1）情報活用能力の育成

○NHK for school「Why!?プログラミング～奇跡のチョウを直せ～」を視聴することで、正三角形をかきたいのに正六角形のような形ができることから課題を見つけさせ、正多角形の性質に気付かせた。

○使うブロックを限定し、正多角形の辺の数・辺の長さ・角の大きさとブロックの意味を結び付けて考えさせた。

（2）主体的な学び

○Scratch のねこの動きを児童に実際に体験させたり、手元にスクラッチのねこの模型をもたせたりしたことで、正多角形をかくプログラムを考えさせることができた。

5 課題

- 正多角形の辺の長さと角の大きさが『等しい』から繰り返しブロックが使えるなど、正多角形の性質にもどっておさえ、一般化していく。
- ワークシートに計算スペースを確保したり、計算機を渡したりして、学習上のつまずきを取り、しっかり考える時間を確保する。

6 協議会・指導助言・講話を受けて

- ・つまずきを想定し、手立てを考えておくことが、児童の「分かる・楽しい」につながる。
- ・児童一人一人の言葉を引き出すために、児童の実態をしっかり把握し、支援を考える。

